

SSH通信

スーパーサイエンスハイスクール
岩手県立水沢高等学校
第26号 2016年2月3日 発行

東北地区 SSH 指定校発表会

平成28年1月23日(土)~24(日)の2日間、青森県八戸市の青森県立八戸北高等学校を会場に東北地区 SSH 指定校発表会が開催されました。東北地区17校が参加し、口頭が17本、ポスターが32本の発表がされました。

23日には口頭発表が行われ、口頭発表の優秀賞には、仙台第三高校の「コンクリート再固化技術の開発~捨てられるがれきに新たな命を~」、鶴岡南高校の「古細菌から紐解くエオサイト説」、釜石高校の「甲子柿由来の柿タンニンの抗菌作用についての研究」、横手清陵学院中学校・高等学校の「鳥海山の雪形について-



『眠る子どもの顔』をつくる植生-」の4点が選ばれました。

24日のポスター発表では、磐城高校の「いわきメダカのルーツ」、仙台第一高校の「Determining the Direction-Dependence of Cosmic Rays by Observing Air Showers」、鶴岡南高校の「温泉で野菜は美味しくなるか!?!」、福島高校の「鉄コロイドを用いたPVAゲルフィルムの開発」の4点が選ばれました。

仙台第三高校の発表は、ホウ素を廃コンクリートと混ぜることで再固化させるという研究で実用が期待できる。鶴岡南高校の発表は、古細菌のDNA配列を解析して生命の進化に迫る研究でした。釜石高校の発表は、釜石市の特産である甲子柿に含まれるタンニンの含有量に着目した地域性のある研究だった。横手清陵学院高校の発表は、鳥海山に現れる『雪形』を地形・植生の丁寧な現地調査から解明していった研究だった。

本校からの口頭発表は「奥州の自然界から分離した酵母の食品利用」でした。残念ながら、優秀賞には選ばれませんでした。原稿を見ることもなく堂々と発表しました。質問も多くいただいたので、これからの研究に活かして欲しいと思います。また、ポスター発表は「光と種子発芽に関する研究第6報-レタス種子の発芽に関する研究-」と「月の満ち欠けと表面化温度の関係」の2本でした。前後半50分間ずつ、10分刻みに入れ替えがあり、その中で発表をこなしていかなければならぬ大変慌ただしい発表でした。直接、質問を受けたり、意見を交換したりして有意義な体験ができたと思います。また、他校の研究に直に触れたりしてたくさんの刺激を受けたと思いますので、今後活かしてくれるものと期待しています。



ポスター発表の様子



助言の先生からの講評

- ・ 今回の賞は、独創性・地域性・将来性を大切にしたい。
- ・ 目的を絞って、計画的に進める。今年はこちらまで、次年度はこちらまで進めるという見通しを持って、研究を進めて欲しい。
- ・ 「無い夢は叶えられない（ノーベル賞受賞の白川博士）」の言葉にあるように、夢を持って研究に取り組んで欲しい。
(北里大学獣医学部教授 杉浦俊弘先生)
- ・ 高校生ならではの研究をして欲しい。そのために先行研究を活かして欲しい。
(弘前大学教育学部教授 長南幸安先生)
- ・ 自分のデータをちゃんと見ているか。困ったときは周りの人の手を借りることも大切。
(八戸工業大学基礎研究センター准教授 川本清先生)
- ・ 評価は周りがしてくれます。結果をしっかりとまとめること。
(八戸工業大学システム情報工学科准教授 伊藤智也先生)
- ・ 独りよがりでは研究は進展しない。他人に直してもらい、アドバイスをもらいつもりで発表をしよう。
(国立研究開発法人科学技術振興機構理数学習推進部
先端学習グループ東地区担当 関根康介先生)